

●CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です●

シリーズ「土木ということば」 第24回（最終回） これにて「土木竣功」

国語辞典には「しゅん-こう【竣工・竣功】」と併記されることが多い。

白川静『字通』（1996年、平凡社）に「竣」は字形が「立は一定の位置に人の立つ形で、儀礼を行うところをいう。その設営の成ることを竣といい、竣功という。」とあり、訓義は「おわる、できあがる。」である。

江戸時代の「できあがる」は「禁裏御造営出来」「小御所御庭出来」「御普請出来」「天守台御普請相済」「市谷御門出来御引渡」「石垣樋柵御修復出来」など「出来」を用いるものが多い。「竣工」は深川永寿山海福寺の天和三年（1683年）の鐘銘「重新造焉、及乎竣工、知事來乞銘」、「竣功」は市谷覺雲山浄栄寺の文化五年（1808年）の鐘銘「重建鐘樓、越三年、土木竣功」（鐘楼再建の三年にわたる工事ができあがり）にあるものの、それぞれ現存する用例は少ない。

明治二年刊行『布令必用新撰字引』（1869年、松田成己）に「竣功 シュンコウ テガラガデキアガル」とある。国立公文書館を検索すると「大日本史刑法志竣功」（明治四年）、「東京横浜間ノ鉄道竣功開業」（明治五年）、「新紙幣製造竣功（明治八年）」があり、「竣功」は書物、鉄道、紙幣など「事業」のできあがりを示していた。功を奏す「奏功」、功を成す「成功」と同様のことばである。その後、「新道竣工（明治十五年）」、「軌鐵敷設竣工（明治十五年）」と「竣工」が混在して使われるようになった。ここで「工事竣功」が6,691件に対して「工事竣工」は263件。「竣工」は「工事」の意味を含む「できあがる」である。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.72 コンテンツ

巻頭言	危機において指揮者に対する信頼が不十分であるとき	皆川 勝	2
コラム	土木学会5か年計画(JSCE2020-2024)の策定と実践	塚田 幸広	3
身近な土木遺産シリーズ	第3回幻の広浜鉄道	野村 吉春	5
部門活動紹介	企画サービス部門の活動について	中村 裕司	8
会員からの投稿	昨年の台風15号による電柱倒壊を受けての調査	井上 利一	10
サポーターからの投稿	溪流釣りとは川の在り方	出本 眞次	12
事務局通信			14